

市議を目指しやすい環境整備検討会 提 言 書

— まちの未来は、自分で決める —



【若者】

高校を卒業し、地元企業で働く 30 歳の青年



【女性】

小学生の息子と保育園の娘を育てる主婦



【議員】

市議会議員。
議会改革に熱心。

【はじめに】



議員の「なり手」不足って聞いたことあるかな。



なるほど。やっぱりベテラン議員が多くて、若者は挑戦しにくいのかな。

高知県で「村総会」設置へというニュースを見たよ。上越は大丈夫？ 前回の選挙では 2 人超過、その前は 9 人超過だから、だいぶ減っているみたい。



どうかな。引退を考えていたけど、後継者が見つからず、やむなく再度出たという話も聞くね



そんなに減っているの？ 候補者が少ないと何が問題なの？



後継者ねえ…。議会や政治は堅そうなイメージがあるし、女性には家事や育児もある。忙しくて議員になるなんて、考えられないわ。

私たちは、選挙で投票するとき、できるだけ自分の考えに近い人を選びたいよね。



候補者が少ないと、選択肢が狭まり、意見を政治に届けにくくなる。これは、投票率の低下にも関係しているね。



それに、議会っておじさん達が難しい言葉で言い合いをしているイメージもある。それより、若者同士で楽しく過ごしたいよ。



なるほど。そういえば女性の声は届きにくいわね。女性議員って何人いるのかしら。



それから、選挙ってすごくお金がかかりそう。これから子どもにお金がかかるのに、そんな余裕ないわ。夫だって、選挙に出るなんて許してくれないわよ。

上越市の女性議員は 1 人だよ。



二人の言葉は、若者や女性の「生の声」だね。上越市議会は、検討会を設置して、「議員のなり手不足」の解決策の検討を始めたんだ。興味ある？



女性は少ないんだね。僕たちみたいな若者っているの？



うん、あるある。

何歳まで若者か、意見が分かれるけど、前回選挙で当選した議員は、30 代が 3 人、40 代が 1 人、50 代が 8 人で、残り 20 人が 60 代以上だったよ。



それでは、検討会がまとめた提言書を見ていくことにしよう。



【第1章 市民と議会の距離を縮める】



市民の声を聴くと、「忙しくて政治に関心が向かない」「市議の顔が見えない」など、政治への関心が薄いことが明らかになりました。特に衝撃的だったのは、「議員なんていなくても私たちの暮らしに影響はない」と思っている市民が多数いたことでした。市民生活に深く関わる市の仕事を最終決定する議会の重要な役割が、市民に全く伝わっていなかったのです。

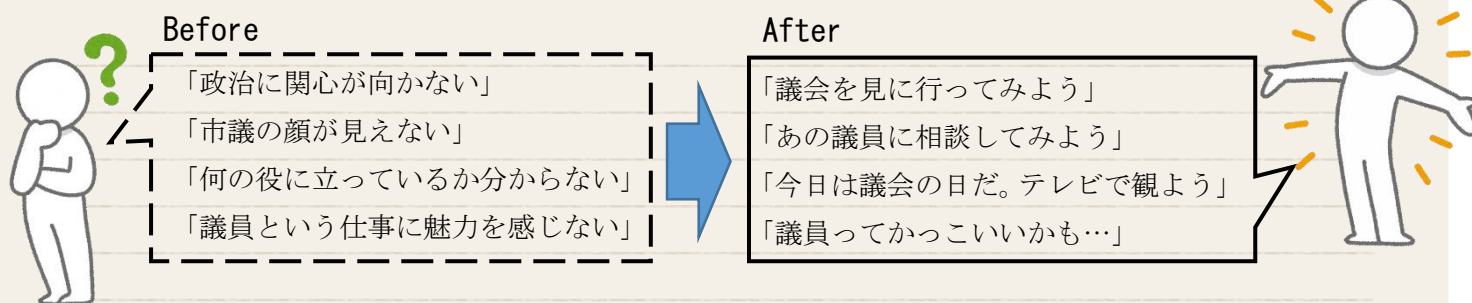
そこで、検討会では、市議会と議員の姿を正しく理解し、その意義を知ってもらうにはどうすべきかを検討し、以下の改革案をまとめました。

議会傍聴の改革・活性化	— 審査内容の広報 — 市内各所での議会中継 — 「気軽に傍聴できる」ことの周知
模擬議会、体験学習の実施	— 小中学生・高校生、女性、若者などの「模擬議会」の開催 — 小中学生の議会体験学習のさらなる推進
意見交換会の改革	— 地域的、年齢層、性別、学校や職場など小単位の意見交換会 — 地域協議会や学校等と話し合い、テーマを決めて実施 — 視察の結果を市民に伝える視察報告会の実施
広報 PR の充実	— 議員の紹介コーナーなど、議会だより「かけはし」の刷新 — 市議会独自のホームページの作成 — 映像媒体を使った広報 — Facebook 議会ページのさらなる充実
土日・夜間・出張議会の開催	— 幅広い市民の傍聴を促す — 土日議会、夜間議会、出張議会の開催
インターン制度、サポーター制度、勉強会等の実施	— 幅広い議会活動を担うインターン制度、市民サポーター制度の導入 — 市政の様々な課題を市民と学習する勉強会の実施
言葉、表現力の改革	— 議会用語・行政用語の解説集の作成 — 市民の常識と照らし合わせた議会の慣例通例の洗い出し



議会を「見て、聴いて、知る」ということね。

「顔が見える関係」になることが期待できそうだね。



これらの様々な改革や取組を通して、少しずつ、市民と議会とをつないでいく。

政治が市民生活にいかに深く関わっているか、そのために議会がどう役に立っているかを市民に正しく理解してもらい、議員という仕事のやりがいに共感してもらう。

政治に無関心だった市民が、市議会議員に関心を寄せる！

【第2章 選挙の困難さの解決】



市民からは、「選挙って難しそう、よく分からない」、「どのくらいお金が必要なの?」、「後援会組織もないし…」「選挙に落ちたらどうなるの」という不安の声が寄せられました。検討会では、一般市民には馴染みのない「選挙」について、まずは知ってもらい、さらには少しでもその負担を減らす改善策を考えて、選挙は思ったよりも挑戦しやすいと感じてもらうことが大切だと考えました。検討会のメンバーも初めての選挙のときは、皆さんと同じように不安を抱えながら挑戦してきました。経験者だからこそ、これから挑戦しようとする人の不安を和らげることができる考えたのです。

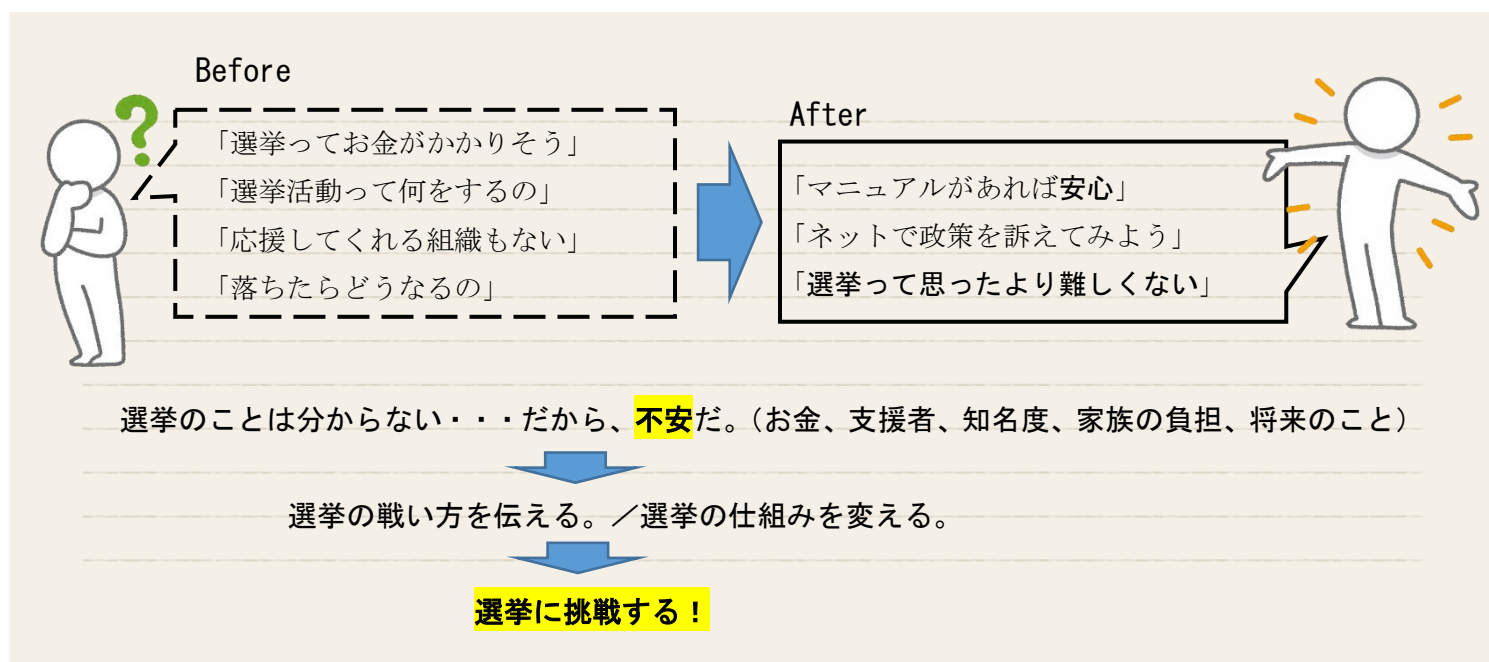
選挙マニュアルの作成	— 「上越市議会版選挙マニュアル」の作成 「選挙にいくらかかるか」など具体的に記述する。
公職選挙法の改善を国に求める	— 禁止条項の適正化、供託金の適正化、クォータ制度など、 国への公職選挙法改正の要望



選挙は未知の世界だけど、マニュアル本に体験談が載っていると身近に感じるね。



お金の不安が解消されれば、選挙に対する印象も随分変わると思うわ。



【第3章 物理的課題の解決】



市民からは、収入や社会保障への不安の声もたくさん聞かれました。「選挙」による洗礼は議員の宿命です。落選すれば「ただの人」と言われるように、失業の可能性も高い職業です。その不安定さがあっても、なお、魅力的な仕事でなければ、議員のなり手不足は解消できません。多くの人にとって、仕事で得られる報酬というのは魅力のひとつだし、仕事選びの重要な要素です。今のご時世、議員報酬の適正化（増額）に取り組むのは、市民感情からしても、なかなか難しいことかもしれません。それでも、市民に実態をきちんと伝え、理解してもらうことが大切だと考えました。

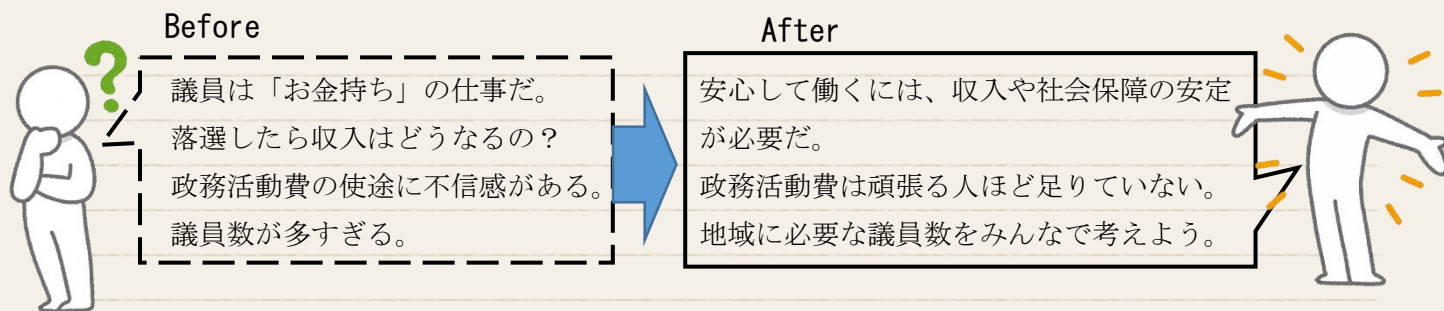
議員報酬の適正化	— 上越市議会議員の報酬の適正化 — 課題は、市民理解
社会保障の充実	— 地方議員の厚生年金への加入実現
政務活動費の見直し	— 政務活動費の適当な支給額や支給条件の検討
議員定数の検討	— 現在 32 名である議員定数の議論



失業のおそれもある不安定な仕事のわりに、報酬や年金は少ないのね。意外だわ。



貯金の少ない若者には、報酬は重要だよ。ぜひ、議論してほしいね。



世間のイメージに比べて少ない議員報酬、落選による失業もある不安定な職業

議員の待遇を改善して魅力を高め、市議に挑戦したいと思える環境を整備する。

生活に不安を感じることなく、精一杯、活動できる。

【第4章 取り巻く環境の解決】



選挙に出ようと考えたとき、**周囲の理解**は最も重要な要素のひとつです。家族や親戚、職場は、あなたにとって大切な存在であり、あなたを大切に想ってくれる存在です。だから、あなたは迷惑をかけたくないと考えるし、周囲もあなたに苦勞させたくないと考えるでしょう。また、地元の様々なしがらみや思惑は、立候補の思わぬ障壁になることがあります。検討会では、日頃から地域活動などを通じて**課題解決に向けて行動する人**と、その人物に期待して押し上げていく**周囲の環境**が必要だと考えました。つまり、**本人のやる気と周囲の信頼**が大切だということです。また、議会も主体的に、**人材の発掘や育成**に取り組む必要性を提言しています。

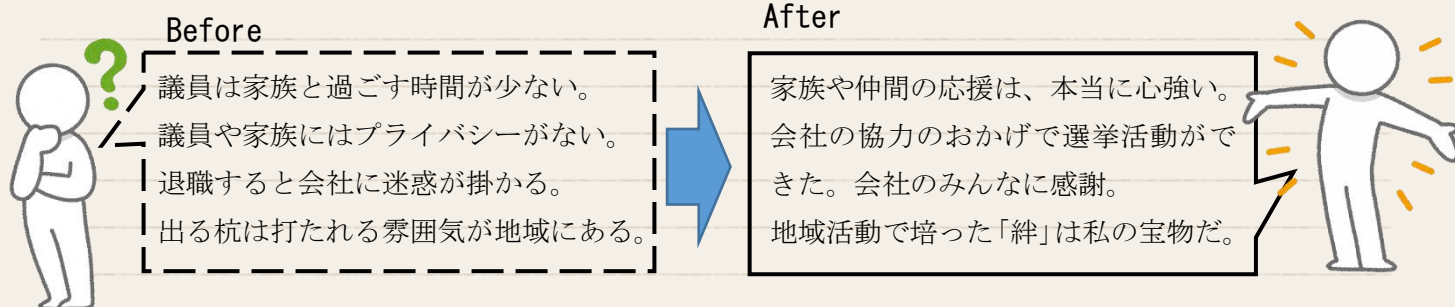
地域環境の整備	— 積極的な社会参加を行い、そのなかで市議会議員を目指す意識を醸成していくことが、環境の整備につながる。 — 「本人の本気度 × (かける) 信頼関係の力 = 実現」
人材育成	— 様々な地域活動を通じた人材を発掘し、育成していく。 — 「インターン制度、サポーター制度、勉強会」等を実施する中で人材を見つける。



普段から、地域活動に参加して周囲との信頼関係を築くことが大切なんだね。



みんなで戦う選挙だからこそ、周囲の支えが必要なのね。



地域活動を通じて、**社会と関わる**機会を増やす。活動を通じて人と人との**信頼関係**を築く。

人材を発掘し、育成する。・・・本人の**市議を目指す意識**の醸成と、周囲の**期待**

周囲の理解と協力が得られた状態 → さあ、**立候補**しよう！

【第5章 女性特有の壁の打破】

男女平等の価値観は社会に浸透しつつありますが、**女性議員は圧倒的に少ない**のが現状です。

市民意見においても、「家族の反対がある」「子育てと両立する環境がない」「女性の活躍に対する社会の偏見がある」といった、女性特有の「壁」が指摘されました。



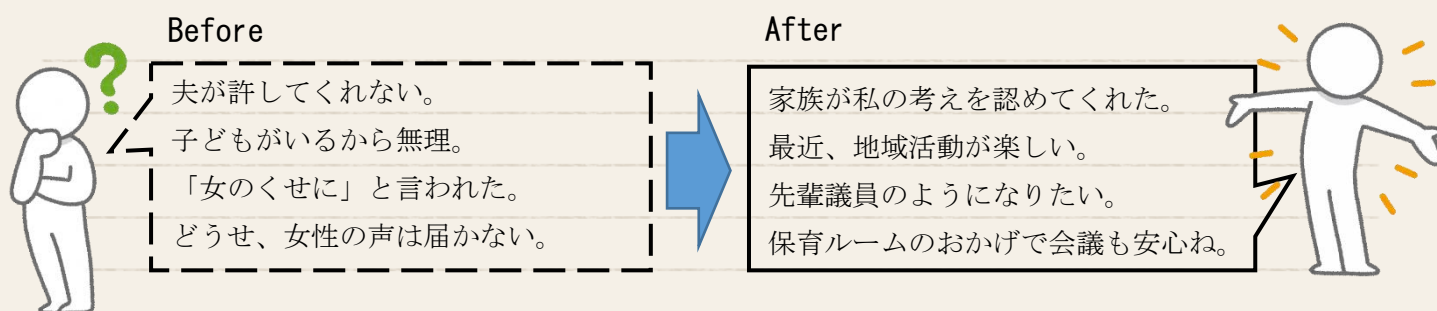
検討会では、これらの女性特有の「壁」を打ち破るためには、まずは女性を取り巻く環境、とりわけ、**意識改革が必要**と考えました。女性の政治参加を認め、それを支える社会の実現が望まれます。また、議会が**女性に優しい存在**になること、具体的には、子育てや介護をしながら議員活動ができるバックアップ体制づくりを提言しています。

意識改革・啓発活動	— 女性、男性ともに意識改革が必要 — 家族や地域など女性を取り巻く共同体の意識改革も必要 — 市議会主催の「女性フォーラム」や「女性議員による講演会」などを開催する。
地域活動との連携	— 地域協議会や市民団体、NPO、町内会などに参加する女性たちに市政への関心を抱いてもらう「政治塾」的な育成組織の立ち上げ
バックアップ体制の整備	— 議会自体が「女性に優しい」「女性議員を考慮した」存在になること — 「授乳室」、「保育ルーム」、「親子同伴傍聴席」の整備を検討する。
クォータ制度の検討	— 女性に一定の議席又は候補者を割り当てるクォータ制について、国への働き掛けの是非も含めて検討



女性の声を代弁する女性議員の存在は大きいわ。どんどん増えてほしいわね。

「女性に優しい」体制が整備されれば、女性議員の増加に期待が高まるね。



「女性が政治に関わることは当たり前」だという**意識改革**

女性が**安心**して議員活動ができる体制づくり

女性議員が増加し、今よりもっと、**女性の意見が反映された社会**に！

【おわりに】



提言は、どうだったかな。



どんな取組が選ばれたんだろう。

課題がたくさんあって驚いたよ。
でも、改革が進み、議員が変わってくれば、みんなの意識も変わってくるだろうね。



提言書に詳しく書いてあるから、一度、読んでみてほしい。検討の経過がよく分かるよ。



そうよね。まずは、議員がお手本を示してくれなきゃ。



ねえ、今まで気付かなかったけど、上越市議会って、結構頑張ってるんじゃない？

そのとおりだね。議員が憧れの存在にならないと、議員を目指す人は現れないだろうね。



ありがとう。
以前から議会の改革に取り組んでいて、全国的に見ても、先進議会のひとつなんだよ。



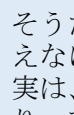
ところで、気になった項目はどこかな。



へー、知らなかったなあ。
もっとPRすればいいのに。



僕は、第1章の「距離を縮める」ための取組に期待したいな。市民の代表であるはずの議員の顔が見えないようでは困るよ。



そうだね。市民に我々の活動を伝えなければならないね。
実は、この提言をまとめるに当たり、ひとつの指針を掲げたんだ。

私は、第5章の「女性の壁の打破」だわ。女性の声もしっかり届けてほしいわ。



それは、議会改革で全国1位の評価を受けること。絶え間ない改革こそが、市民の信頼につながり、多様な人材が議員を目指す原動力になると考えているんだ。



どちらも大切だね。
検討会では、広報PRの充実や女性フォーラムの開催など7つの項目を早急に取り組むべきだと提言しているよ。



がんばれ、上越市議会！



**市議会議員に立候補します。
上越の未来は、私たちにおまかせください！**

